

LIBRA SQUARE

Book 最近、おもしろかった本

『TOEIC®テスト900点 TOEFL®テスト250点への王道』

杉村太郎 著 ダイヤモンド社 1470円（税込）

何か夢中になることを 探している人にもお勧めの1冊

昨年、英語を母国語としない人のための英語の試験であるTOEFLを初めて受験した。暗い気持ちで家路に着く帰り道、立ち寄った本屋でふと目に付いたのが、「TOEIC®テスト900点 TOEFL®テスト250点への王道 たった3ヶ月で絶対スコアアップ！」という文字である。「3時間の勉強で2年で合格！」というキャッチフレーズに惹かれ、某司法試験予備校に入学し、入学後、現実を知り衝撃を受けたかすかな記憶もよみがえったが、とりあえず、勉強の指針にはなるのではないかと考え、同書を購入することにした。

この本には、TOEICやTOEFLでスコアを上げるための精神論と方法論が書かれている。精神論として、「いつまでに何点取るのか目標を決めよう。高めの目標を設定しよう」「義務感でやるのは無意味。攻めの気持ちで勉強せよ」などの項目が挙げられ、英語の勉強を続けるためのモチベーションを保つための方法が書かれている。また、方法論としては、著者のおすすめの参考書が紹介しており、それを1週間で

1回読み終えるなどの具体的な方法が書かれている。

おそらく初めてこの本を読む普通の人は、著者の圧倒的なテンションに少々ひくと思われる。しかし、具体的な目標が設定され、そのための具体的な方法が示されているので、読み進めるうちに、だんだん自分にもその方法に従えば目標達成できるのではないかと思えてくる。そして、目標に手が届くと思えた瞬間、人間やる気が沸いてくるものである。特に、本稿の読者の大部分と思われる司法試験経験者は、多かれ少なかれ、目標設定とそれに対するストイックな生活に慣れていると思われるので、読み始めたら、はまること間違いないである。

TOEFLやTOEICのスコアを上げたい人だけでなく、英語の基礎力を上げたい人、何か夢中になることを探している人にもお勧めの1冊である。

（会員 根本 藍）



Cinema 心に残る映画

『クレイマー、クレイマー』

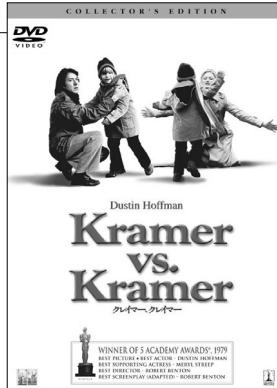
1979年／アメリカ／ロバート・ベントン監督作品

観る回数を重ねるうちに 自分だけの作品史ができてくる

「クレイマー、クレイマー」を初めて観たのは、まだ私が小学生のころ、確か、水野晴郎が映画紹介をするテレビ番組だったと思う。物語は、ある日、突然妻が家を出て行くところから始まる。夫妻（ダスティン・ホフマンとメリル・ストリープ）には幼い子供がおり、妻は、子供を置いて家を出て行く。夫は、これまで、仕事ばかりで、育児は妻に任せきりだったため、父と子の奮闘の日々が始まる。ある日、妻は、子供を取り取りたいと言って裁判を起こすが、育児のために仕事でミスをした夫は職を失い、裁判にも負けてしまう。初めて、この映画を観たときは、子供心に、なんというひどい妻だろうと思ったものだ。夫はすごく頑張っていたのに、子供を取り上げる裁判結果にも納得がいかなかった。

2度目に観たのは、高校生くらいだったんだろうか。映画のラストシーンは、夫に謝りながらさめざめと泣く妻に対し、夫が理解を示すシーンだった。妻は自立した女性で、どこまでも美しく、彼女にも仕方ない事情があったのだということ

『クレイマー、クレイマー コレクターズ・エディション』DVD
価格：2,000円(税込)
【期間限定価格】
発売・販売元：(株)ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント



が強く伝わってきた。

大学生のときにも観た記憶がある。物語の舞台は、70年代のニューヨークで、当時盛んだったウーマンリブを象徴しているようだった。しかし、テーマは、イデオロギーというよりは、割り切れない問題の存在やそれを乗り越える心のつながりみたいなものを、夫婦や家族の目線で描くものではなかったかと思う。このときは、大人社会の複雑さについて考えさせられた覚えがある。

いい映画は、何度観てもその都度新たな感想があるものだが、その時々の感想は、当時の自分の内面を反映したものもある。そして、観る回数を重ねるうちに、いわば自分だけの作品史ができてくる。こうして、心に残る映画は、いつまでも残り続けていくことになるのだろう。そろそろ、また、この映画を観てみたいと思っている。

(会員 佐藤 篤志)